

部課名		生涯学習部生涯学習総務課											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習部の総務担当課として、事務事業の執行計画の調整・進行管理、連絡調整等を行い、組織が適切に運営できるようにします。</li> <li>・町田市固有の歴史資源(※)の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。</li> <li>※歴史資源とは…文化財に限らず、地域の歴史を伝える資料の総称</li> </ul>											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定				中間確認				年度未確認			
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	個別計画 ／ 全庁で取り組む施策	まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実 ／ 「子どもにやさしいまちの実現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、町田市の歴史や文化を学ぶ機会を充実させるため、小中学校向けの、「出張歴史授業プログラム」に新しいプログラムを追加し、小中学校にPRをしながら、事業を実施します。</li> <li>・子どもや親子を対象とした歴史資源を活用した講座やイベントを実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①出張授業実施件数</li> <li>②子ども向け講座・イベントの実施件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①20件</li> <li>②85件 ※上半期で達成されたため修正</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4月の学校支援ボランティアコーディネーター会議や、学校に伺った際に出張歴史授業のPRをしました。9月末現在で12件の授業を実施しました。</li> <li>②自由民権資料館での「親子でお仕事体験 学芸員になってみよう」や、考古資料室での夏休み特別開室「ドキドキ“縄文のまちだ”を学ぼう！」等、子ども向け講座・イベントを4件実施し、各施設への子どもの新規来館を促進し、町田市の歴史資源に触れる機会を提供しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続きPRをしながら小中学校向け「出張歴史授業プログラム」を実施します。</li> <li>②子ども達が地域の伝統芸能を親む機会として、体験講座「(仮)町田の伝統芸能『矢部八幡宮獅子舞』を体験しよう」を10月に実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4月の学校支援ボランティアコーディネーター会議や、学校に伺った際に出張歴史授業をPRし、18件の授業を実施しました。2025年度は、新たに「学びの多様な学校分教室 ゆめのき」や特別支援学級から依頼をいただき、実際に土器や石器に触れるなどの体験を取り入れた授業を実施しました。その他、自由民権資料館では、高校2校の歴史学習を受け入れ、生徒が地域の自由民権運動などについて詳しく学ぶ機会となりました。</li> <li>②歴史資源を活用した子ども向け講座・イベントを6件実施しました。</li> <li>・自由民権資料館で、まちだコドマチ条例を学ぶパネル展を子ども総務課と共催で開催しました。</li> <li>・考古資料室で、学芸員が質問に回答するなどの「なつやすみキッズプログラム」を2回、「まっくうに会いに行こう！」の特別開室を1回実施しました。</li> <li>・自由民権資料館で、「学芸員になってみよう」の親子のお仕事体験講座を開催しました。</li> <li>・忠生市民センターでパネルや獅子頭の展示や御幣作り体験の「矢部八幡宮獅子舞を体験しよう」を開催しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①18件</li> <li>②6件</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>C:①は概ね目標を達成し、②は年度途中に上方修正した目標を更に上回る成果があったためです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小中学校向け「出張歴史授業プログラム」の内容の見直しや更なるPRの強化が引き続き必要です。</li> <li>②子どもを対象とした町田の歴史を学ぶ機会を充実させるよう、様々なテーマで実施する必要があります。</li> </ul>
2	個別計画	歴史資源の保存・整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国重要文化財旧永井家住宅の耐震対策実施にむけて、耐震基礎診断を実施します。</li> <li>・昨年度整備が完了した国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡をはじめとした市内の遺跡を活用したイベントを実施します。</li> <li>・新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①旧永井家住宅耐震事業の進捗状況</li> <li>②遺跡活用イベント実施件数</li> <li>③新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①耐震基礎診断完了</li> <li>②1件</li> <li>③70%</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国指定重要文化財旧永井家住宅の構造調査や地盤調査等の現地調査を実施しました。</li> <li>②国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡発見100周年を記念した講演会を開催することとし、実施に向けて会場や講師等の調整を行いました。</li> <li>③新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理を進め、整理率は64.3%となりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種調査結果を基に解析を実施し、耐震診断を完了します。また、次年度以降の耐震補強計画策定に向けて、文化庁や委託事業者と調整を行います。</li> <li>②多くの方に来場いただけるよう、広報等の準備・調整を行い、11月に講演会「敷石住居地研究の100年」を実施します。</li> <li>③引き続き重要史料群の整理を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国指定重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を完了しました。また、文化庁や委託事業者との調整等、2026年度の耐震補強計画策定に向けた準備を進めました。</li> <li>②高ヶ坂石器時代遺跡整備にご協力いただいた、昭和女子大学の山本暉久名誉教授を講師に招き、講演会「敷石住居地研究の100年」を開催しました。57名が参加し、終了後のアンケートでは88%の方から満足・大変満足との回答をいただきました。</li> <li>③重要史料群の整理を目標どおり進め、整理率は70.2%となりました。秋の企画展「町田とお殿さま」では、整理を進めた野津田の河井家等の史料を活用しました。企画展開催中は、2024年度の秋の企画展と比較して約2倍となる2,027人が来館し、「領主と領民のかかわり、領主への願いなど具体的な資料が見られてよかった。」等の感想をいただきました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①耐震基礎診断完了</li> <li>②1件</li> <li>③70.2%</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>C:目標水準を達成したためです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①耐震基礎診断の結果に基づき、耐震補強計画を策定し適切な耐震対策を進めます。</li> <li>②町田の歴史への理解や愛着を高めるため、引き続き、市内の遺跡や史跡を活用したイベントを実施します。</li> <li>③2029年度の整理完了を目指し、引き続き、重要史料群の整理を進めます。</li> </ul>

順位	計画類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点
3	個別計画／全庁で取り組む施策	歴史資源の活用環境の整備／「シティプロモーション」	<p>・まちだの歴史資源の見どころや講座・イベントを、市内外に広くPRする手法を検討し、実施します。</p> <p>・市内外問わず、多くの方が参加しやすい会場で、まちだの歴史資源を活用した新たな講座や展示を実施します。</p> <p>・町田市の歴史にいつでもどこでも触れられるよう、企画展のデジタル展示化や、子どもから大人まで幅広くご覧いただける歴史を学ぶ動画の作成等を行うとともに、町田デジタルミュージアムの利用状況を検証し、より幅広い世代に利用していただけるよう、公開内容の更新を行います。</p>	<p>①新たな手法によるPRの実施</p> <p>②新規アウトリーチ事業件数</p> <p>③デジタルミュージアムの更新</p>	<p>①実施</p> <p>②25件 ※上半期で達成されたため修正</p> <p>③更新完了</p>	<p>○</p> <p>①新たなPRの手段として、4月にInstagramアカウント「まちだ縄文キャラクターまっくろ(町田市公式)」を開設し、画像や動画による情報発信を開始しました。また、まっくろグッズ(クリアファイル、シール)の販売を自由民権資料館にて開始しました。</p> <p>②2025年3月に新たに市登録有形民俗文化財となった「成瀬の天狗型道祖神(3基)」を紹介するパネル展を市内3カ所(成瀬コミュニティセンター、南市民センター、なるせ駅前市民センター)で実施しました。また、鶴川香山園に、能ヶ谷香山古墳群から出土した考古資料を展示し、計4件のアウトリーチ事業を実施しました。</p> <p>③デジタルミュージアムの内容更新に向けて、システム事業者と検討・調整を行いました。また、歴史を学ぶ動画として、考古分野の動画を新たに作成することし、委託事業者との調整や撮影に向けた準備を進めました。</p>	<p>○</p> <p>①Instagramは週1回以上の情報発信を行うとともに、フォロワーの増加を図りながら効果を検証します。また、まっくろグッズの販路拡大を検討します。</p> <p>②1月に市庁舎イベントスタジオにて、市所蔵民俗資料を活用した展示を実施します。</p> <p>③デジタルミュージアムに新たなコンテンツを追加する作業を実施します。また、考古分野の動画を作成し、公開します。</p>	<p>①新たなPRの手段として、4月にInstagramアカウント「まちだ縄文キャラクターまっくろ(町田市公式)」を開設し、イベントや見どころ等について、計140回の発信を行いました。3月末時点で約300人の方にフォローいただき、閲覧数の月平均は9,300件を超え、多くの方に情報を届けることができました。まっくろグッズは、自由民権資料館や考古資料室の特別開室での販売に加え、Instagramをフォローいただいた方へのシールの特別配布も行い、町田の歴史資源のPR促進に活用しました。また、グッズの販路拡大に向けて庁内で検討しました。</p> <p>②年間で8件の新規アウトリーチ事業を実施しました。</p> <p>・2025年3月に新たに市登録有形民俗文化財となった「成瀬の天狗型道祖神(3基)」を紹介するパネル展を市内3カ所(成瀬コミュニティセンター、南市民センター、なるせ駅前市民センター)で実施しました。</p> <p>・鶴川香山園では、4月から能ヶ谷香山古墳群から出土した考古資料の展示を開始しました。また、12月には展示を入れ替え、鶴川遺跡群1地点の考古資料を展示しました。</p> <p>・秋企画展「町田とお殿さま」関連の市内史跡をめぐるフィールドワークを2件開催しました。</p> <p>・町田市役所イベントスタジオでのメカイ作りの歴史と現状を紹介した「手仕事の技ー小野路のメカイ作り再発見ー」展を開催しました。</p> <p>・町田市民フォーラムのまちだ男女平等フェスティバルで、自由民権家の娘で明治から昭和までをたくましく生き抜いた「北村実那の生涯」を紹介する講演会を実施しました。</p> <p>③デジタルミュージアムの内容を更新し、2025年度に作成した動画「縄文のまちだ」をはじめ、歴史や文化財について学ぶことが出来る動画コンテンツを掲載しました。従来YouTubeのみで公開していた歴史資源関連の動画をデジタルミュージアムに集約することで、小中学校の授業等でも活用できる環境を整えました。</p>	<p>①実施</p> <p>②8件</p> <p>③更新完了</p>	B	<p>B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。</p> <p>②今後も、町田の歴史資源を活用した新たな講座や展示を、多くの方が参加しやすい会場や内容で開催します。</p> <p>③引き続き、資料のデジタル化や動画の作成等を進めるほか、デジタルミュージアムの利用状況を検証しながら、活用の幅を広げるための検討を進めます。</p>	<p>①本年度開始したInstagramや各種グッズを活用しながら、多くの方に興味を持っていただけるよう、効果的な情報発信を行います。</p> <p>②今後も、町田の歴史資源を活用した新たな講座や展示を、多くの方が参加しやすい会場や内容で開催します。</p> <p>③引き続き、資料のデジタル化や動画の作成等を進めるほか、デジタルミュージアムの利用状況を検証しながら、活用の幅を広げるための検討を進めます。</p>
4	個別計画	学校施設活用の推進	<p>地域の方々が学校を利用しやすい環境を整備するため、一部の学校において予約システム及びスマートロックを導入する他、学校施設が利用できることを広く知ってもらうため、個人でも参加できるイベントやスポーツ教室等を実施します。</p>	<p>予約システム・スマートロックの導入及びイベント等の実施学校数</p>	<p>2校</p>	<p>○</p> <p>忠生第三小学校及び図師小学校の2校において、学校単位の施設予約システムを構築し8月から運用を開始しました。また、予約システムと連携したスマートロックを設置し、9月から運用を開始しました。</p>	<p>○</p> <p>予約システム及びスマートロックの運用状況や導入効果を検証します。また、学校を利用している団体等と連携し、学校施設を活用した地域の方々が参加できるイベントを企画・実施します。</p>	<p>・忠生第三小学校と図師小学校において、スマートフォンアプリのLINEを利用した学校ごとの予約システムを8月に導入するとともに、予約システムと連携したスマートロックを設置し、9月から運用を開始しました。予約システムの導入により、利用人数等をLINEから報告することができるようになり、利用者の利便性を向上させることができました。また、スマートロックの設置により、セキュリティを向上させることができました。</p> <p>・学校施設が利用できることを周知するため、学校施設を利用している団体等と連携し、2月に忠生第三小学校及び図師小学校においてスポーツ等の体験イベントを実施しました。</p>	<p>2校</p>	C	<p>C:目標水準を達成したためです。</p>	<p>・引き続き予約システム及びスマートロックの運用を行いながら、利用状況の把握や利便性の検証などを行い、他校への導入拡大に向けた準備を進めます。</p>

順位	計画類型	年度目標設定				中間確認		年度末確認					
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
5	人材育成	「チームワーク志向」	専門分野の異なる学芸員間の知識の向上及び、緊急時の対策や課題を課内共有することによる職員のスキルアップを目的とした、講習会を開催します。	学芸員・職員講習の開催回数	6回	○	4月に「経営品質の向上に向けた課題の共有」「災害時の対応」、5月に「自由民権資料館企画展の目的と概要」、7月に「適切な予算の調製・執行」「個人情報の取扱い」をテーマとした課内講習会を3回開催し、職員として必要な知識の習熟に努めました。	10月、11月及び2月の講習会開催に向け、テーマの選定や資料作成等を進めます。	個人情報の取扱いなど市職員として必要な知識の他、自由民権資料館企画展の概要など課の事業等に係る内容をテーマとした課内講習会を6回開催し、知識の習熟に努めました。 ・4月 経営品質の向上に向けた課題の共有、災害時の対応、ハラスメント防止体制について ・5月 自由民権資料館企画展の概要 ・7月 適切な予算の調製・執行、個人情報の取扱い ・10月 自由民権資料館の収蔵史料について ・12月 埋蔵文化財包蔵地の確認について ・2月 文化財IPMについて	6回	C	C:目標水準を達成したためです。	人事異動による職員配置の変更や異なる知識の習熟を図るため、引き続き、課内講習会を実施する必要があります。
6	事務事業見直し	効率的・効果的な資料及び展示室・収蔵庫の維持管理	自由民権資料館と三輪の森ビジターセンターの展示室・収蔵庫の適切な環境を維持するために実施しているIPM(総合的有害生物管理)業務の仕様内容を見直し、委託料を削減します。 2024年度に実施した対策により、害虫・微生物の数が低減したことから、これを維持する取組を行います。 また、職員間で専門知識の向上を図るとともに、情報共有を行うことで、効率的・効果的な維持管理が継続できるようにします。	委託料の削減割合	40%	◎	IPM(総合的有害生物管理)業務の清掃方法や使用器具を見直し、約45%の委託料を削減しました。 また、職員が個別にIPM関連の各種研修会・講習会に出席して得た専門知識を課内担当者に共有することにより、効率的・効果的な維持管理に役立てています。	IPMモニタリングの結果を十分に分析しながら、引き続き適切な維持管理に努めます。	IPM(総合的有害生物管理)業務の清掃方法や使用器具を見直し、45%の委託料を削減しました。 IPM業務委託で毎月提出されるモニタリング結果を分析しながら、職員が日常的に清掃や部屋の状態確認をすることで、害虫・微生物の発生を低水準で維持することができました。 また、専門知識を向上させることを目的とした研修を担当内で月に1回開催しました。	45%	C	C:目標水準を達成したためです。	IPMモニタリングの結果を十分に分析しながら、引き続き適切な維持管理に努めます。

部課名		生涯学習部生涯学習センター											
課の使命		学びに出会う機会と学習成果をいかにす機会を提供するための中核施設を担います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度未確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	全庁で取り組む施策	「障がい者への差別を解消し共生社会の実現」	2025年3月に作成した「町田市障がい者青年学級事業実施要項(案)」に基づき、2026年度から障がい者青年学級を安全かつ公平に学習することができる事業として実施するための準備を進めます。また、生涯学習センター運営協議会や事業関係者等の意見を聴取しながら、当該実施要項を作成します。	①実施要項案に基づいた事業実施体制の構築 ②実施要項の作成	①準備完了 ②実施要項の作成完了	○	①安全な学習環境の確保を最優先に適切な支援を行えるよう、コース編成や実施回数を変更するなど学級ごとに事業実施体制を整理しました。 ②学級ごとに整理した事業実施体制を基に、実施要項に定める一学級あたりの学級生数と支援スタッフ数の適正数について検証しました。	①②学級ごとの取組も判断材料にしながら検証を続け、安全かつ公平な実施体制を構築し、併せて実施要項を作ります。	①事業実施要項案に基づき、定員数の基準や在籍期間を設けるなど安全かつ公平に学習するための実施体制構築の準備を行いました。 ②生涯学習センター運営協議会や事業関係者等の意見を聴取しながら、当該実施要項を作成しました。	①準備完了 ②実施要項の作成完了	C	C:目標水準を達成したためです。	安全かつ公平に持続して学習できるよう、新たな実施体制の検証を行います。また、ボランティアスタッフが減少傾向にあるため、事業が継続できるよう運営手法等を検討します。
2	事/人材/業務/育成/直し	生涯学習センター窓口業務/市民志向	①2026年4月の業務委託範囲拡大に向け、委託内容の確定や業者の選定、契約、事業開始に向けた業者への事務引継等の準備を進めます。 ②業務の一部委託化によって市民サービスの低下を招かないようにするとともに、委託した業務の実施状況等を市職員が十分に把握・管理できるようにするため、事務手順や事務マニュアルの見直しを行います。	①2026年4月業務委託範囲の拡大 ②委託化する業務の事務手順・事務マニュアルの見直し	①業務委託範囲拡大に向けた契約等諸手続きの完了 ②見直し完了	○	①契約形態について検討し、仕様書案を作成しました。 ②2026年度からの業務委託範囲拡大に向け、委託化する業務を確定し、手順等を定めたマニュアル作成に着手しました。	①2026年4月から拡大する委託範囲での業務開始に向け、事業者の選定を進めます。 ②選定した事業者と調整し、業務手順・事務マニュアルの見直しを完了します。	①事業者を選定し、2026年1月の再開館から、施設貸出、施設管理業務について先行して委託を開始しました。併せて、2026年4月から拡大する業務委託範囲での契約等諸手続きを完了しました。 ②2026年1月の再開館に合わせ、業務手順・事務マニュアルを作成しました。	①業務委託範囲拡大に向けた契約等諸手続きの完了 ②見直し完了	C	C:目標水準を達成したためです。	2026年度の委託範囲拡大を円滑に進めるため、事業者のスキルアップに向けた取組を継続していく必要があります。
3	重点事業プラン	新たな学びの支援	デジタルデバイドを解消するため、デジタル初心者向けの体験講座を実施します。また、デジタル機器の操作を習得された方向けに、ICTツールを活用する講座など、応用講座を実施します。	①デジタル初心者向け講座と応用講座の受講者のうち、学習成果を今後、活かせる と答えた受講者の割合 ②応用講座実施回数	①96% ②2回	○	①デジタル初心者向け体験講座を24回実施し、受講者アンケートで学習成果を今後活かせる と答えた人の割合は97%でした。 ②下半期の応用講座実施に向けて、講座内容の検討を行いました。	①デジタル初心者向け体験講座は依然として市民ニーズが高いため、引き続き実施します。 ②上半期に検討した内容をもとに、応用講座を2回実施します。	①デジタル初心者向け体験講座として、「なんでもスマホ相談室」を生涯学習センター及びわくわくプラザで、全17回実施しました。また、高齢者を対象とし、各ふれあい館で「高齢者向け！なんでもスマホ相談室」を全18回実施し、併せて約260人が受講しました。アンケートで、学習成果を今後活かせる と答えた人の割合は97%でした。 ②応用講座として、「SNS活用講座」と「生成AIの基礎講座」を実施しました。	①97% ②2回	C	C:目標水準を達成したためです。	①デジタルデバイスに直面している市民は多いことから、引き続き、高齢者を中心に、「なんでもスマホ相談室」を実施します。 ②引き続き、基本操作を習得された方向けに、スマートフォンを活用する講座等、応用講座を実施します。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	生涯学習のデジタル化の推進	対面型講座に参加することが難しい方に学習機会を提供するため、講座の一部を動画配信講座として実施します。	実施講座のデジタル化率	5%	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に学びのきっかけづくり講座、7月に市民大学講座「健康学」、8月に同講座「人間科学」、9月に同講座「歴史」、計4講座をオンデマンド配信により実施しました。</li> <li>・より多くの方に興味を持ってもらうため、「夏の平和イベント」開催案内HPに、2024年度の様子を動画配信しました。</li> <li>・9月末時点のデジタル化率は4%でした。</li> <li>・新たな層へのアプローチとして、X(エックス)やLINE等のソーシャルメディアを活用し、広報を行いました。</li> </ul>	家庭教育事業及び市民大学講座の一部について、オンデマンド配信により実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月までにデジタル化した4講座と2024年度の「夏の平和イベント」の動画配信に加え、10月に家庭教育支援事業テーマ別講座「デジタル」、2026年1月に市民大学講座「歴史」をオンデマンド配信し、実施講座の7%をデジタル化しました。</li> <li>・新たな層へのアプローチとして、XやLINE等のソーシャルメディアに加え、チラシ配信アプリの運用を開始し、広報を行いました。</li> </ul>	7%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、対面型講座への参加が難しい現役世代に向けて、デジタル配信による講座を実施します。
5	個別 計画	学びの循環とネットワークづくりの推進	<p>①市民が学習成果を活かす機会を充実させるため、生涯学習ボランティアバンクを運営してきましたが、新型コロナの流行以降、利用が回復しないため、利用件数増加のための見直し向け、生涯学習センターを利用する団体を対象に、ボランティア講師の利用に関するニーズ調査を実施します。</p> <p>②2024年度に設置した相模原・町田教育連携プラットフォームを中心にリスキル・リカレントの機会の情報提供を開始します。併せて、リスキル・リカレント情報の収集先を拡大します。</p>	<p>①ボランティア講師の利用に関するニーズの把握</p> <p>②-1 リスキル・リカレント情報の提供開始</p> <p>②-2 情報収集範囲の拡大</p>	<p>①ニーズの把握完了</p> <p>②-1情報提供開始</p> <p>②-2収集範囲の拡大</p>	○	<p>①5月にちよこつとアンケートにおいて「学びに出会う機会と学びを活かす機会」に関するアンケート調査をオンラインで実施しました。</p> <p>②-1 7月に、町田市公式ホームページ内に「リカレント・リスキル講座情報」ページを新設し、情報提供を開始しました。</p> <p>②-2 リスキル・リカレント講座情報ページに、国や東京都、関係機関のリスキル・リカレント情報へのリンクを構築し、情報収集範囲を拡大しました。</p>	<p>①1月の再開館後に、施設利用者を対象としたアンケートを実施し、ニーズの把握を行います。</p> <p>②相模原・町田教育連携プラットフォームなどと連携し、開設したリスキル・リカレント講座情報ホームページに掲載する情報を拡充します。</p>	<p>①5月にちよこつとアンケート「学びに出会う機会と学びを活かす機会」、1月に生涯学習センター利用者を対象としたアンケートを実施し、ボランティア講師の利用に関するニーズを確認しました。併せて、生涯学習センター運営協議会において事業の方向性について検討を行いました。</p> <p>②-1 7月から町田市公式ホームページ内に「リカレント・リスキル講座情報」ページを新設し、大学等の多様な機関が実施している講座の情報提供を開始しました。また、11月には各講座の詳細な情報が掲載できるようホームページの構成を見直し、内容の拡充を図りました。</p> <p>②-2 国や都等の行政機関や大学等の教育機関など、リスキル・リカレント情報の収集先を拡大するとともに、多くの方が情報を入手することが出来るよう、新設した「リカレント・リスキル講座情報」ページに各機関が発信している情報へのリンクを掲載しました。</p>	<p>①ニーズの把握完了</p> <p>②-1情報提供開始</p> <p>②-2収集範囲の拡大</p>	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>①把握したニーズを踏まえ、制度の見直しを行うとともに、利用者の拡大を図るための周知を進めます。</p> <p>②開設したホームページにおいて、情報提供を継続・拡充していきます。</p>

部課名		生涯学習部図書館											
課の使命		誰もが、必要とする知識・情報を容易に入手することができ、安心して過ごせる環境を提供することで、人と人とのつながりあい知的で心豊かな生活の実現に寄与します。											
実行計画(年度目標)													
順位	計画類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン / 事務事業見直し	ワタンが主役の図書館づくり	目的や用事がなくても気軽に過ごせる地域の居場所をつくることを目指し、地域と「共に創り」「共に運営する」施設として民設民営化されたつるかわ図書館コミュニティ施設「つるぼん」の運営を支援します。	①地域団体等との連携イベント実施回数 ※「連携イベント」を分かりやすくするため ②来館者数	①3回 ②69,000人	○	①地域団体等との連携イベントとして5月10日に「つるぼん」のグランドオープンイベントを実施し、1,213人に来場いただきました。そのほか、地域の方に協力いただいて「たき染めワークショップ」や「つるぼんで！アフリカ体験」などのイベントを実施しました。 ②9月末時点の来館者数は、約44,800人です。「つるぼん」では、地域団体と連携したイベントや「おはなしに会おう会」などを定期的に行い、コミュニティ形成を進められており、予定通りに来館しています。	①10月に鶴川団地秋祭りへの出展、アート団体と連携したイベントの実施を予定しています。 ②引き続き、つるぼんのイベントなどの運営を支援します。	①地域団体等との連携イベントを5回実施しました。 ・5月 グランドオープンイベント ・10月 鶴川団地秋祭り ・10月 鶴川OMOTENASHI祭 ・10月～11月 現代アート団体とのコラボイベント ・12月 鶴川ラクガキ音楽祭 ②「つるぼん」の来館者数は、3月末時点で99,800人になりました。「つるぼん」では、幅広い世代の方に興味を持っていただくとともに、地域の方々等によるコミュニティの形成を進めるため、定期的なおはなし会の他、「たき染めワークショップ」や「絵本を作る仕事」等、様々なイベントが開催されています。これらの活動を支援するため、運営団体への補助金交付やアドバイス等を行いました。	①5回 ②99,800人	A	A:当初の目標を大幅に上回る成果が上がったためです。	コミュニティ形成や本に触れる機会を充実させるため、引き続き運営団体の支援を実施します。
2	重点事業プラン / 事務事業見直し	新たな図書館様式推進事業	①電子書籍サービスの充実を図ることにより、暮らしの中で本に触れる機会を増やします。 ②更なる運営効率化と利便性向上のため図書館利用のオンライン登録、LINE利用を推進します。	①電子書籍の年間貸出数 ②オンライン登録件数	①110,000タイトル ② <del>9,000件</del> 2,000件 ※上半期の実績を踏まえて目標値を下方修正します	○	①市内の幼稚園・保育園132園や、町田駅周辺の飲食店等26店舗に電子書籍PRカードを配布しました。8月には南市民センター祭で電子書籍サービスについてPRし、9月末時点での電子書籍貸出数は、48,191タイトルでした。 ②9月末時点でのオンライン登録件数は1,017件でしたが、LINE上で本の検索や予約が出来るLINE連携数は3,437件となり、図書館の新たなデジタルサービスの利用が進んでいます。	①10月に忠生市民センター祭でPR、12月に金森図書館で電子書籍サービスの使い方講座を開催します。また、入院病棟のある医療機関へ電子書籍PRカード等を配布します。 ②オンライン登録、LINE利用の利便性を電子書籍と合わせてPRします。	①3月末時点での電子書籍貸出数は、97,977タイトルでした。 ・市内の幼稚園・保育園132園や、町田駅周辺の飲食店等26店舗、入院病棟のある医療機関16箇所へ電子書籍PRカード等を配布しました。 ・4箇所の市民センター祭りなどで電子書籍サービスについてPRを行いました。 ・金森図書館で電子書籍サービスの使い方講座を開催しました。 ・町田市公式LINEプッシュ通知を行いました。 ・包括連携協定を締結している日本生命、第一生命にチラシ配布の協力を依頼しました。 ②電子書籍と合わせてPRを行い、3月末時点でのオンライン登録件数は2,173件でした。LINE上で本の検索や予約が出来るLINE連携数は4,673件となり、図書館の新たなデジタルサービスの利用が進んでいます。	①97,977タイトル ②2,173件	C	C:目標水準を達成したためです。	①多くの方に利用していただけるようPRの方法を工夫する必要があります。また、PRに加えて、利用機会を創出する方法を検討する必要があります。 ②電子書籍と合わせてPRを行い、目標を上回ることが出来ました。引き続きデジタルサービスを推進します。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	個別 計画	第五次町田市 子ども読書活 動推進計画 ／「子どもにや さしいまち」の 実現に向けた 取組	①「えいごのまちだ」事業を推進するため、外国語の絵本・児童書の整備・活用を進めます。 ②子ども・若者が読書や図書館に興味を持つよう、若者が参画するイベントを実施します。	①外国語の絵本・児童書の貸出冊数 ②若者が参画するイベントの実施件数	①16,000冊 ②3件	○	①9月末時点の貸出冊数は、約8,700冊です。 8月の南市民センター祭で、英語読み上げ機能「Read-Along」を紹介しました。 外国語絵本・児童書を手にとってもらえるような特集の検討を始めました。 ②イベントの企画・運営を行う若者ボランティア「図書館プランナー」が、6月に「ありのままアニメ化漫画を5分で話すぜっ！！」、7月に「おいでよ！クツルフの沼」を実施しました。	①10月の忠生市民センター祭にて、「Read-Along」を紹介します。 資料の購入と併せ、貸出冊数が増えるよう特集などを実施します。 ②12月に図書館プランナーが主催する新たなイベントを実施します。	①外国語の絵本・児童書の貸出冊数は17,400冊となりました。 ・8月の南市民センター祭で、英語読み上げ機能「Read-Along」を紹介しました。 ・10月に中央図書館大壁面で、あまり知られていないシリーズの本を中心に、英語絵本の面出し(特集)を行いました。 ・2月11日に「ここがおもしろい！英語多読」を行い、ワークショップ形式で、英語絵本の楽しさを感じてもらうことができました。 ②若者ボランティア「図書館プランナー」が企画したイベントを8件実施しました。 ・6月 アニメ化漫画推し語り会 ・7月 初心者向けのTRPG講座 ・11月 お楽しみBook ・12月 読書の輪を広げるビブリオバトル ・12月 文庫本のカバーでオリジナルのノートをつくろう！ ・2月 集英社漫画推し語り会 ・3月 初心者向けのTRPG講座 ・3月 エコたわしゆび編み講座	①17,400冊 ②8件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①多くの人に英語多読を知ってもらえるよう、電子書籍サービスでの活用も含めて、広く周知を行っていきます。 ②引き続き、若者が参画するイベントを実施し、若年層の図書館利用者の増加を目指します。
4	人材 育成	「市民志向」	来館者の満足度を保つことができるよう職員の専門性を高めるため、図書館業務に関する研修を受講し、研修内容を図書館で共有します。	①研修実施回数 ②研修受講人数	①15回 ②165人	○	①9月末時点で、新人研修とテーマ別研修(レファレンス研修等)を計7回実施しました。 ②館内課題研修を42人、都立図書館等の研修を10人、計52人が受講しました。	①下半期は、館内課題研修を8回実施します。 ②館内課題研修、都立図書館、国会図書館の研修を受講するように促します。	①新たに図書館へ配属された職員向けの新人研修や、レファレンス、電子書籍、蔵書点検などのテーマ別研修を計17回実施しました。 ②町田市立図書館内の研修のほか、都立図書館等が実施した研修に職員を派遣するなど、計163人が受講しました。	①17回 ②163人	C	C:目標水準を達成したためです。	来館者の満足度を向上させられるよう、研修を実施し、職員の能力向上に努めます。

部課名		生涯学習部図書館 町田市民文学館											
課の使命		"ことばの扉"として、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の人たちに、ことばや文字、文学の魅力に触れる機会、学びのきっかけとなる機会を提供します。また、世代を超えて多様な考え方や価値観に触れ、コミュニケーションを図ることで、創造性を高め、豊かな心を育む場所となります。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度未確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	個別計画	「ことばの扉」事業の推進	「ことば」の持つ力やその深さ、自由さ、大切さなどを感じてもらったこと狙った「(仮)ことばのかたち展」をはじめ、「ことば」や「文学」を柱とした展覧会を4回実施します。若年層の利用増加を狙い、デジタルコンテンツの活用などを検討しながら、ことばや文学に関する事業を行います。また、小・中学校への出張授業など積極的にアウトリーチ事業を実施し、文学に触れあう機会を創出していきます。	①展覧会の観覧者数 ②アウトリーチ事業件数	①25,000人 ②26件	○	①春の展覧会「ことばのカタチ展」はグラフィカルな展示や短歌アプリ「57577」を利用した短歌募集により20代を中心に6,232人が来館しました。 夏の展覧会「絵本の森でフルーツ狩り展」は乳幼児親子を中心に9,895人が来館しました。 ②市内小・中学校において出張授業「ショートショート書き方講座」を16件実施しました。また、「ことばらんど」ショートショートコンクール」の2024年度受賞作品展を中央図書館と市庁舎1階イベントスペースにて開催しました。その他、相原・丸山団地自治会で八木重吉に関する出張講座を実施しました。	①秋季は「サニーデイ・サービス曾我部恵一展」を、冬季は「堀辰雄展」の開催を予定しており、引き続き年度目標の達成を目指します。 ②10月に八王子生涯学習センターにて遠藤周作の出張講座を実施するほか、市内小・中学校での出張授業を引き続き進めていきます。	①様々な視点からことばや文学に親しんでもらえるよう、多彩なテーマの展覧会を実施しました。観覧者数は23,000人と目標値には達しませんでした。アプリと連動した短歌募集や、歌詞のリミックスのコーナーを設置することが出来る仕掛けを取り入れた結果、短歌募集は2,476首、リミックス作品は786編集まり、好評を得ることができました。 ②アウトリーチ事業28件を実施し市民が文学に触れる機会を提供しました。 ・市内の小中高校において「ことばらんど」ショートショートコンクール」に関連した出張授業16件 ・ショートショートコンクール受賞作品展4件 ・町田ゆかり作家を紹介する出張講座5件 ・町田ゆかりの作家や町田が登場する文学作品を紹介するガイドブック「町田ブンガク」を使用した出張授業1件 ・俳句創作講座2件	①23,000人 ②28件	C	C:目標水準を達成したためです。	2026年10月以降、大規模修繕工事に伴う休館が予定されているため、他の施設を利用した展覧会や教育普及事業等の開催により、文学に触れあう機会を継続的に提供することが必要です。
2	事務事業見直し	歳入の確保、低コストでの事業の実施	歳入確保のための助成金申請や、歳出削減のための企業連携などを行い、市費負担を抑え事業を実施します。	①財源の拡充 ②企業などの協力による市費負担を抑えた事業の実施件数	①1件 ②3件	○	①2025年度に実施する展覧会にあたり、助成金を2件申請しましたが採択には至りませんでした。 ②春の展覧会「ことばのカタチ展」では短歌アプリ「57577」の協力を得て短歌募集を行いました。「森村誠一を読み継ぐプロジェクト」との共催で森村誠一作品を読み継ぐ朗読企画を進めています。町田市で取り組んでいる「テーマ型民間提案制度」にエントリーしました。	①2026年度の財源確保のため、助成金申請の準備を進めます。 ②YouTuberのスケザネ氏の協力を得てトークセッション「いま、ここ。私の現在地。」のイベント内容をYouTubeにアップします。	①財源拡充のため申請した2件の助成金は採択には至りませんでした。秋の展覧会「曾我部恵一展」においては、受託販売商品の充実に注力することで、当該展への助成申請額の86%に相当する歳入がありました。また、2026年度に向けて助成金の研究を行い、新たな申請先を開拓して2件の申請を行いました。 ②市費負担を抑えるため企業や団体との協力による事業を以下の3件実施しました。 ・春の展覧会「ことばのカタチ展」では短歌アプリ「57577」の協力を得て短歌募集を行い2,476首が集まりました。 ・秋の展覧会「曾我部恵一展」では、展覧会の記録集となる書籍をROSERECORDSが刊行しました。 ・「森村誠一を読み継ぐプロジェクト」との共催により朗読公演を実施しました。	①0件 ②3件	C	C:①は目標に至りませんが、歳入確保に努め、成果があったためです。	助成金獲得に向けた研究をすすめること共に、新たな歳入確保・歳出削減の手段を検討する必要があります。
3	個別計画	つながることに重きを置いた事業の実施	ことばや文学を柱にしなが地域や人とのつながりを生み出す事業を実施します。学校と連携して実施する「ことばらんど」ショートショートコンクール」や町内会や商店会と連携し開催する「文学館まつり」など、学校や地域協力者、事業所等と連携しながら事業を実施します。	新たに学校や地域協力者、事業所等と連携して実施した事業数	1件	◎	夏の展覧会「絵本の森でフルーツ狩り展」では市内農家の協力を得て「ことばらんどマルシェ」(農産物の販売)や「ブルーベリー狩り」を実施しました。	引き続き、秋季・冬季展覧会や教育普及事業においても新たな事業を実施できるよう検討します。	新たな「つながることに重きを置いた事業」を4件実施しました。 ・夏の展覧会「絵本の森でフルーツ狩り展」では、町田総合高校の生徒とのコラボにより関連イベントを企画しました。また、市内農家の協力による「ことばらんどマルシェ」、「ブルーベリー狩り」を実施しました。 ・「森村誠一を読み継ぐプロジェクト」との共催により朗読公演を実施しました。	4件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	「つながり」を一過性のものにせず維持することが大切です。組織として継続できる仕組みを整えたいと共に、常に新しい「つながり」の形を開拓していくことが必要です。

順位	計画類型	年度目標設定				中間確認		年度末確認					
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
4	個別計画	中高生から20代の若い世代を対象とした事業の充実	未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力を伝えるため、文学に近接する分野を幅広く取り込んだ事業を実施します。小・中・高校生を対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。より多くの作品を応募してもらえるようなPR方法を検討します。	①10代・20代を対象にした事業の実施 ②ショートショートコンクール応募件数	①8件 ②1,200件	○	③春の展覧会「ことばのカタチ展」では20代を中心に6,232人が、夏の展覧会「絵本の森でフルーツ狩り展」では乳幼児親子を中心に9,895人が来館しました。また、市内小・中学校への出張授業「ショートショート」の書き方講座「ショートショート」の書き方講座「ショートショート」の書き方講座「いま、ここ、私の現在地」を実施し計約100人が参加しました。 ②応募作品は847件でした。2024年度の表彰式における審査員による受賞作品朗読と講評の動画をYouTubeで公開したほか、出張授業や出張展示の実施、チラシや2024年度受賞作品集の配布によりコンクールの周知を行いました。	①引き続き10代・20代に人気のある講師を招聘し、2月に文学講演会、3月に出張授業「社会人先生」を実施します。また、3月には地元の町内会・商店会と協力し、文字に関するオリジナル作品を販売する「文ッ字フリマ」を開催します。 ②応募作品の審査を行い、受賞者を決定します。1月下旬に受賞作品発表展を行うとともに表彰式を実施します。	①10代・20代を対象とした事業を9件実施しました。 ・「ことば」をグラフィカルで紹介した春の展覧会「ことばのカタチ展」では、20代を中心に6,232人が来館しました。 ・夏の展覧会「絵本の森でフルーツ狩り展」では乳幼児と20代の親世代を中心に9,895人が来館しました。 ・「ショートショートコンクール」実施にあたり、小・中学校において出張授業を実施しました。 ・10代・20代に人気のある作家等を招聘したトークショー「いま、ここ、私の現在地」を4回実施し286人の参加となりました。 ・中学校への出張授業として、キャリア教育を目的とする「社会人先生」を実施し30人の参加がありました。 ・文字のデザインに興味を持つ若い世代が集う「文ッ字フリマ」を開催しました。 ②応募件数は847件でしたが、出張授業16件、出張展示4件を行い、コンクールの周知に努めました。また、受賞者が地元のケーブルテレビやYouTube番組で取材を受け、コンクールを広くPRすることができました。	①9件 ②847件	C	C:目標水準を達成したためです。	趣味や趣向の多様化、若年層(15～25才)の51.7%が「美術館にまったく行かない」(国立アートリサーチセンターアンケート結果)という昨今において、若い世代に、文学館に来館してもらうことは容易なことではありません。文学館でのリアルな体験に価値を見出してもらえるような事業の展開、SNSを活用した事業のPRが重要です。
5	事務事業見直し	「ゼロカーボンシティまちだ」	事業広報に必要なポスター・チラシの一部を電子化し、紙媒体によるものを削減します。	ポスター・チラシの印刷削減率(枚数)	15%削減(28,000枚削減)	◎	「ことばらんどショートショートコンクール」チラシの小中学校への全校配布をtetoruに切り替えたことにより17%削減(32,000枚削減)しました。	引き続き、紙媒体の削減に努めます。	これまで紙媒体で市立小・中学校へ配布していた「ことばらんどショートショートコンクール」のチラシについて、学校保護者間連絡システム「tetoru」による配信に切り替えました。また、1月に子ども向けイベント「作ってあそぼう！マイ羽子板ワークショップ」のお知らせについても、小学校保護者に対して「tetoru」によりお知らせを配信しました。これらの取組により、2024年度比で17%(32,000枚)の印刷物を削減しました。	17%削減(32,000枚削減)しました。	C	C:目標水準を達成したためです。	若年層向けの事業広報では、SNSや電子媒体を用いることで紙資源の削減効果が見込める一方、高齢者向けの事業や近隣地域への周知など、紙媒体の有用性を踏まえた広報も必要です。
6	人材育成	「市民志向」	来館者の満足度を保ちより向上させるため所属職員に接遇等の研修を受講します。	研修実施回数	3回	○	予算編成に合わせ、8月に予算の基本的な考え方や留意点に関する研修を実施しました。また、来館者サービスの向上につなげるため、効果的な事業計画づくりについて検討しました。	職員課のオンデマンド研修を活用し、11月に「自治体職員のための接遇」を、2026年1月に「新入職員向け自治体行政管理運営力向上研修」を実施します。	2025年8月に予算の基本的な考え方や留意点に関する研修を実施しました。2026年1月に新入職員実務研修「公文書の作成と管理」を実施しました。2026年2月には、職員課のオンデマンド研修を活用し、「自治体職員のための接遇」を実施しました。	3回	C	C:目標水準を達成したためです。	文学館には乳幼児から高齢者まで幅広い年代の市民が来館するため年代や目的に応じた柔軟な対応が求められています。今後も職員課のオンデマンド研修等を利用して、より市民満足度を高める能力を獲得・発揮できるよう研修の実施が必要です。